

コロナ禍に入職する新人看護師の受け入れ体制について

赤穂市民病院 高木 睦子

はじめに

2020年1月日本ではじめて新型コロナウイルス感染症の患者が確認された。それに伴い、感染症指定病院である当院は、新型コロナ感染症対策会議を立ち上げ、感染病棟での患者の受け入れ、発熱外来の設置、面会制限からはじまり、入院の受け入れ、院内での会議や集合研修など人の集まる状況に応じて、厚生労働省の感染管理ガイドラインに地域や病院の状況を加味し対応策を講じた。

多くの研修生・実習生を受け入れている教育体制についても、新型コロナウイルス感染症の収束のみえない中、教育計画を工夫しながら実施した。当初は、できるだけ感染の機会を減らす視点で検討してきたが、新型コロナウイルス感染症の終息が見えないため、できる視点で教育計画を検討し、状況に応じ臨機応変に実施の状況してきた。その過程を報告する。

内容

2020年度4月コロナ禍での初めての新人職員集合研修の実施は、職員間の交差を減らす、ソーシャルディスタンスの確保、マスク・ゴーグルの装着、手指消毒、アルコール清拭による環境整備の徹底など初めての対応に苦慮しながら実施した。少ない情報から、最善の方法を考えていく手探りの状態であった。研修を開催する側も、受講する側も感染の機会になるのではないかという不安をかかえながらの開催であった。研修計画は予定通り実施し、グループワークの機会を少なくするなど開催方法を変更し、対応した。

2021年度は、前年度の新型コロナ感染症対策の経験を参考にし、新人看護師の受け入れ態勢を準備した。特に、臨地実習や学校の授業を十分に受けることができなかった学生が卒業してくることを想定し、職場に適応できる環境づくりをこころがけた。そのため、集合研修を病棟での実践につなげる **On the job training** (以下 **OJT** と記す) の推進のための、お互いを支え合う環境づくりに取り組んだ。

2022年度は、新人看護師・看護師のセルフマネジメントにつながる仕組みや、集合研修にシミュレーション研修の教材を取り入れ実施した。また、職場環境にスムーズに適応できるように、入職時の研修は、講義室での集合研修だけでなく、配属先での研修を取り入れ実施した。さらに、看護技術の習得状況の確認場所を病棟だけでなく、定期的に「寺子屋」(当院での)で実施することを取り入れた。

今後の課題

この度は、コロナ禍を意識した、新人教育体制への取り組みであったが、看護部の教育体制の見直しにもつながった。しかし、教育体制として、ともに育つための支援のスキルの獲得がまだまだ不十分である。スキル獲得のための方策を検討し、新人の成長とともに、先輩看護師がともに育つ職場環境を目指していきたいと考えている。